

インターバンクの声（2015 年 4 月 2 日）

おとなしく金曜日の米雇用統計発表を待てば良かったが、常に多少なりとも“ポジションを抱えながら相場に臨むのがディーラー”との独りよがりのポリシーが邪魔をして、出さなくても良かった損失を出してしまった。自民党議員の追加緩和は4月30日の日銀金融政策決定会合が好機との発言に対する市場の反応や、どうも米ADP雇用統計が強い結果になりそうだとの囁きもあり、ついついドル買いのポジションを厚めにしてしまった。結果は見事なまでに聞こえていた囁きとは真逆の弱いADPの内容。しかもいつものADP発表後よりも何故か早くて大きな値幅の反応となった。負け惜しみにはなるが、一旦下げ止まったレベルで早めに損切ったことだけは正解だった。その後の米ISM製造業景況指数の好結果を期待しての反発に賭けていれば、損失が倍近くになるところだった。米雇用統計の非農業部門就業者数に対する金融機関の予想値が少し弱目に傾いているようで、今度はドル売りで構えようかとも思ったが、イースターで相場も薄くなるようなので、明日は静かに結果だけを見ることにした。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。